

日常診療を変えるエビデンスを皆様へ。

日頃より「今日の臨床サポート」をご愛顧いただき、ありがとうございます。
2024年8月に改訂された臨床レビューの中から、日常診療に大きく影響を与えるようなエビデンスをご紹介します。

下垂体機能低下症	- 最新の情報に基づいてコンテンツを見直し、改訂を行った。 - 近年、抗がん剤として用いられる免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象として、下垂体機能低下症が惹起される事例が増加している。わが国の前向き研究では、抗PD1抗体では6%、抗CTLA4抗体では24%にみられ、ACTH単独欠損症を来す症例とACTHを含む複数の下垂体前葉機能低下症を来す症例に大別される（Kobayashi T, et al. J Immunother Cancer. 2021 May;9(5):e002493.）。 - 症例を提示した。関節拘縮という非典型的な症候により発症、検査異常（高CPK血症）および既往歴（分娩時大量出血）を契機に汎下垂体機能低下症（シーハン症候群）の診断に至った症例である。詳細は臨床レビューを参照されたい。
膵癌(診断)	『膵癌取り扱い規約第8版』を参考に改訂を行った。 >> 腹腔細胞診（CY）に関して、CY1（腹腔細胞診で癌細胞を認める）がM1（遠隔転移を認める）と定義された。これを受け腹腔細胞診の実施方法を記載した。 2件の症例について画像を用いて解説した。 >> 症例 膵上皮内癌：限局性膵萎縮、主膵管狭窄と尾側の主膵管拡張を認めた際には膵上皮内癌を疑って精査を行う必要がある。 >> 症例 尾部癌、腹膜播種：比較的小さな腹膜播種でもFDG-PETで集積する場合がある。腹水を認めない場合も、腹腔洗浄細胞診を目的とする審査腹腔鏡は有用である。
心膜炎	- 最新の情報に基づいてコンテンツを見直し、改訂を行った。 - SARS-CoV-2ウイルスによる心膜炎が報告されている。またCOVID-19に対するワクチンによる心膜炎が報告されている（Lazarou E, et al. Curr Cardiol Rep. 2022 Aug;24(8):905-913.）。 - 免疫チェックポイント阻害薬の使用により、心膜貯留や心膜炎などの心膜疾患が出現することがある。 >> 免疫チェックポイント阻害薬投与後6.7%の患者に開始後40日程度（中央値）に心膜液貯留が認められ、免疫チェックポイント阻害薬投与後かなり時間が経過して出現する例もある（Li X, et al. Front Immunol. 2023 Feb 23;14:1130438.）。

『今日の臨床サポート』とは

エビデンスに基づく日本語によるリファレンスツールです。
約1,430の疾患・症状概要、診断・治療方針などをご覧になることができます。ジェネリックを含む薬剤情報、疾患・症状の患者向け説明資料、インターネット版ではPubMedへのリンクもご用意しています。

QRコードまたはURLからアクセスできます。
イントラ版をご契約の施設では、院内端末からログイン
なしでご覧になることができます。



<https://clinicalsup.jp/jpoc/>

ログインには、①ユーザー名、②パスワード、
③施設コードが必要です。管理者の方にご確認
ください。

最新エビデンスをタイムリーに
受け取れます。ご登録はこちらから。

